



中核地域生活支援センター—いちほら福祉ネット—って どんなところ？

いちほら福祉ネットは、千葉県の委託事業である「中核地域生活支援センター（以下、中核センター）事業」を受託し、17年目となりました。

この間には、多くの方々との出会いがあり、たくさんのご相談をお受けし、相談者の方とともに悩み奔走し、地域の皆さんや専門機関・諸団体のお力添えにより、日々業務を行って行くことができました。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

● 中核センターの誕生

はじめは、「理不尽な理由で辛く悲しい思いをしている人はいないか」という問いかけでした。

平成14年、千葉県では政策の立案段階から当事者である県民の意見を取り入れていく千葉県独自の手法（健康福祉千葉方式）が展開されました。県内各地でタウンミーティングが行われ、それまで理不尽な理由で辛く悲しい思いをしてきた当事者たちが声をあげました。県民にとって必要な福祉施策とはどのようなものなのかが徹底的に議論され、官民が協働で作上げたのが「千葉県地域福祉支援計画」です。平成16年3月のことでした。

この計画の中で、千葉県がめざす地域福祉のかたちとして「『誰もが、ありのままにその人らしく、地域で暮らすことができる』地域社会の実現」という理念が掲げられました。

それを具現化するには、相談・生活支援・権利擁護を一体的に、24時間365日体制で実施する拠点が必要とされ、その機能をもった中核センターの設置が位置づけられたのです。

そうして平成16年10月、健康福祉センター（保健所）のエリアごとに14カ所（現在は13カ所）の中核センターが誕生しました。

● 中核センターの事業

それでは、中核センターの業務内容についてご紹介します。大きく4つの事業があります。

① 包括的相談支援事業

制度の狭間や複合的な課題、新たな課題により生活不安を抱えている方等を中心に、関係機関とともに、広域的、高度な専門性を持った寄り添い支援を行う。

② 地域総合コーディネート事業（地域づくり）

福祉・医療・司法・教育等の各分野の支援者や支援機関等を調整するとともに、互いのネットワークの強化を図る。また個別支援における課題を地域の課題として取り上げ、関係機関と問題共有を図り、新たなサービスや社会資源の創出を促進する。

③ 市町村等バックアップ事業

市町村や各相談支援機関が相談事例に対応するにあたって、市町村等からの求めに応じて、専門的かつ多面的な視点に立った助言等の支援を行う。

④ 権利擁護事業

本人や家族が認識していない権利侵害等も含め、積極的な把握と対応に努める。



令和4年度からの新たな事業

加えて、令和4年度から2つの事業が加わるようになりました。

○重層的支援体制構築のための市町村支援事業

市町村における重層的支援体制の構築に向け、基礎研修や複合的な支援が必要な事例の検討、体制構築に向けた課題整理等を行う。

○課題を抱える高校生の居場所・相談支援事業

千葉県内の県立高等学校5校において、学校内における居場所の設置（居場所カフェなど）や福祉的相談対応、気づき支援等を行う。

いちほら福祉ネットは、県立生浜高等学校とともに取り組みます。

中核センターの委託

中核センター事業は毎年公募され、審査を経て健康福祉センター圏域ごとに委託先が決定されます。社会福祉法人や医療法人、NPO法人が受託しています。

いちほら福祉ネットは、平成18年4月から社会

福祉法人ききょう会が受託しており、市原健康福祉センター圏域（市原市）を担当しています。

さらに県は、委託した法人が中核センター事業を適正に運営しているかを評価するため、各分野に精通した第三者委員により構成された評価会議を設置し、年に1回調査を行っています。

そのほか、各圏域の中核センターを中心に「千葉県中核センター連絡協議会」を構成しており、受託団体が一丸となって、地域課題の発信や事業の周知、職員の資質向上、他団体との協働などに取り組んでいます。

さいごに

私たちの生活は、時に困難が生じることがあります。自分一人の力ではどうにもならないこともあります。解決まで時間がかかるかもしれません。

それでも中核センターは、人の力を信じて困難な問題や新たな問題に取り組みます。相談者の方も地域の方も関係機関の方も一緒に悩み、考え、一歩ずつ進めていきましょう。



スタッフ紹介

○ 所長・地域総合コーディネーター

大戸 優子（おおと ゆうこ）

4月1日付けで着任いたしました。前職は生活困窮者支援の現場で近年はコロナ禍の問題に向き合ってきました。7年ぶりの中核センターです。一層尽力いたします。

○ コーディネーター

味岡 舞（あじおか まい）

ホームレス支援団体や生活に困窮している方の相談経験を経て、令和3年9月より中核で働いております。まだまだ勉強の身ですが、これまでよりも広い視野をもちながら、一人ひとりに寄り添った支援をしていければと思います。

○ 事務員

八木 由美子（やぎ ゆみこ）

他市で、子どもの療育に携わる仕事を経て、令和3年8月より中核センターの事務員として働かせて頂いています。これから地域の皆さんに少しでも貢献出来る様、頑張っていきたいと思っております。

○ コーディネーター

三森 理美（みもり さとみ）

他市で児童の発達支援に関する仕事を経て、令和3年7月より中核センターで勤務しています。市民の皆様のお困りごとに寄り添い、共に考え行動するコーディネーターとなれるよう日々勉強しながら取り組んでいきたいと思っております。

○ サブコーディネーター

岩永 マキ（いわなが まき）

地域の皆様や職場の皆に支えられながら働いていますが、いつの間にかいちほら福祉ネットも若い職場になりました。中核の特徴を生かしながら活動が出来ればと思います。

フードドライブ（食品の回収）に参加してみませんか ～ご家庭に眠っている食品大募集～

つながる市でフードドライブ

「つながる市」は、マチ×ヒト×モノをつなぐイベントです。いちほら生活相談サポートセンターでは、無印良品主催の「つながる市」にフードドライブ（食品回収）のブースを出展します。

ご家庭で不要になった食品（賞味期限2ヵ月以上）がありましたら、缶詰一つからでも大歓迎です！ぜひお持ちください。

当日はフードドライブブースのほか、市原市で活躍する生産者の方などの色々なブースが出店されます。お散歩がてら足を運んでみませんか。

【イベント】第4回つながる市

【開催日】令和4年5月21日（土）～22日（日）

10:00～15:00

※フードドライブ出展日は5月21日（土）

【場所】アリオ市原1階

サンシャインコート（屋外）

*新型コロナウイルス感染状況や悪天候によっては、変更・中止になる場合があります。



さくらライオンズでフードドライブ

市原さくらライオンズクラブは社会奉仕と友愛を目的としたボランティア団体です。牛久駅周辺の下記の会員店舗に回収ボックスを設置しています。

【場所】株式会社キセツホーム（牛久1186）

深山文具店（牛久897-2）

福祉ショップ&喫茶もみの木（牛久882-6）

「フードドライブ」ってなに？

「フードドライブ」とは、ご家庭で不要になった食品を回収する活動のことです。

日本では年間1700万tの食品が破棄され、そのうち600万tがまだ食べられるのに捨てられている現状があります。フードバンクは、さまざまな理由で破棄されてしまう食品を企業や家庭などから引き取り、食べ物を必要としている方や福祉施設へ無償で提供するしくみです。身近な食品エコ活動として、困窮者支援活動として、皆さまのご協力をお待ちしています。

サポートセンターでは、月～金（祝日除く）9:00～17:30にも受付をしております。

【問合せ先】

いちほら生活相談サポートセンター

TEL 0436-37-3400

Email ichihara.sapo@zb.wakwak.com



障害者グループホーム等支援ワーカー 新担当者の紹介

はじめまして。4月より市原圏域障害者グループホーム等支援ワーカーとなりました、大宮 俊介（おおみや しゅんすけ）です。

グループホームの皆さんの暮らしが少しでも豊かになるように頑張ります。

また、グループホームに関するお悩みやご質問があれば、お気軽にご相談ください。よろしくお願いたします。

TEL：0436-23-5300（いちほら福祉ネット内）

Eメール：ichihara-ghw@ag.wakwak.com





旬の食材を使ったヘルシーメニュー

ビタミンCで老化防止効果

新じゃがの鮭バター煮

(1人分：149Kcal)

材料(4人分) 新じゃがいも 350g 鮭缶 150g にんにく 1片 バター 10g 塩 小さじ 1/2
パセリ少々

- 作り方…① じゃがいもは食べやすい大きさに、にんにくはみじん切りにする。
 ② 鍋に①と、鮭缶、塩、材料が少し見えるくらいの水を加え、柔らかくなるまで煮る。
 ③ バターを溶かしながら混ぜて、パセリを散らす。

栄養士さんからのおすすめの一言・・・

「じゃがいものビタミンCはでんぷんによって守られているため調理してもたっぷり摂取可能です。鮭のアスタキサンチンには抗酸化作用があり缶詰を使えば、骨も手軽に食べられます。」

今回のレシピは、社会福祉法人佑啓会 ふる里学舎 管理栄養士 犬飼友貴恵様に提供していただきました。

いちほら福祉ネット活動報告

〈会議〉

- 1/11 加茂地区民生委員児童委員協議会 定例会
- 1/12・26・2/9・25・3/9・23 意思決定支援アドバイザー(WEB開催)
- 1/15・2/19・3/19 ちはら台地区総合相談
- 1/17・2/28・3/8・17 市原市精神保健福祉フェスタ 全体会 イベント企画・舞台係
- 1/18・2/18・3/15 市原市相談機関連絡会(2月のみWEB開催)
- 1/21・2/18・3/25 市原地域リハビリテーション広域支援センター ちーき会(WEB開催)
- 1/25・2/22・3/29 市原市要保護児童対策地域協議会 実務者会議
- 1/25・2/22・3/22 千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会 定例会
- 1/27 市原市認知症対策連絡協議会(WEB開催)
- 2/ 7 千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会 評価会議(WEB開催)
- 2/ 8 千葉県総合支援協議会相談支援部会
- 2/ 9 市原市障がい者支援協議会 運営会議
- 2/18 市原市相談機関連絡会(WEB開催)
- 2/21 市原市障がい者支援協議会
- 2/22 市原地域難病相談支援センター運営会議(WEB開催)
- 2/24 市原市特別な教育的支援を必要とする児童生徒に係る支援会議
- 2/25 千葉県中核地域生活支援センター連絡調整会議(書面開催)
- 3/ 7 茅ヶ崎市 意見交換(WEB開催)
- 3/10 市原市成年後見制度利用促進審議会(書面開催)
- 3/19 市原市精神保健福祉フェスタ
- 3/28 千葉県精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築推進事業市原圏域実務者会議

〈研修〉

- 1/19・2/16 千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会 研修委員会 学習会(WEB開催)
- 1/25・3/23 司法と福祉千葉モデル勉強会
- 1/28 千葉県弁護士会「貧困問題に関する懇談会」(WEB開催)
- 2/ 1 DVの子どもへの影響(WEB開催)
- 2/ 2 愛着(アタッチメント)～理解を深める知識と支援編～(WEB開催)
- 2/15 令和3年度多分野連携研修(WEB開催)
- 3/ 5 令和3年度千葉県てんかん支援拠点病院 市民公開講座 高齢者の「てんかん」(WEB開催)
- 3/11 市原市相談支援事業所連絡会「銀杏の杜」勉強会
- 3/15 よりそいホットライン事業報告会(WEB開催)

コロナ禍の2年間で最も変わったことのひとつに、会議や研修のオンライン化があります。すっかり慣れましたし、便利さを享受していますが、直接顔を合わせられるといいなあと思うことも少なくありません。今年度こそは、そのような機会が多く持たますよう、多くの方々と未来を語り合えますよう、願ってやみません。

いちほら福祉ネットへの相談件数

(速報値)

令和4年1月～令和4年3月

延相談件数 1,737件(新規67件)

相談方法	対象者		
電話	1,270件	高齢者	94人
訪問	389件	障害者	772人
来所	58件	児童	202人
個別支援会議	20件	その他	669人

令和3年度(4月～3月)

延相談件数 7,439件

編集後記

いつの間にか桜が舞い落ち、新緑がまぶしい季節に入りました。今号からは一と通信の誌面を大幅リニューアルしましたが、いかがでしょうか？これからも読みやすくわかりやすい情報を市民の皆様へ届けたいと思いますので、新体制のいちほら福祉ネットをよろしくお願ひします！ (スタッフ一同)